

死にゆく過程を本人に伝える本、 『人のさいご』の制作

尾山直子¹⁾ 國居早苗¹⁾ 林瞳¹⁾ 神野真実²⁾

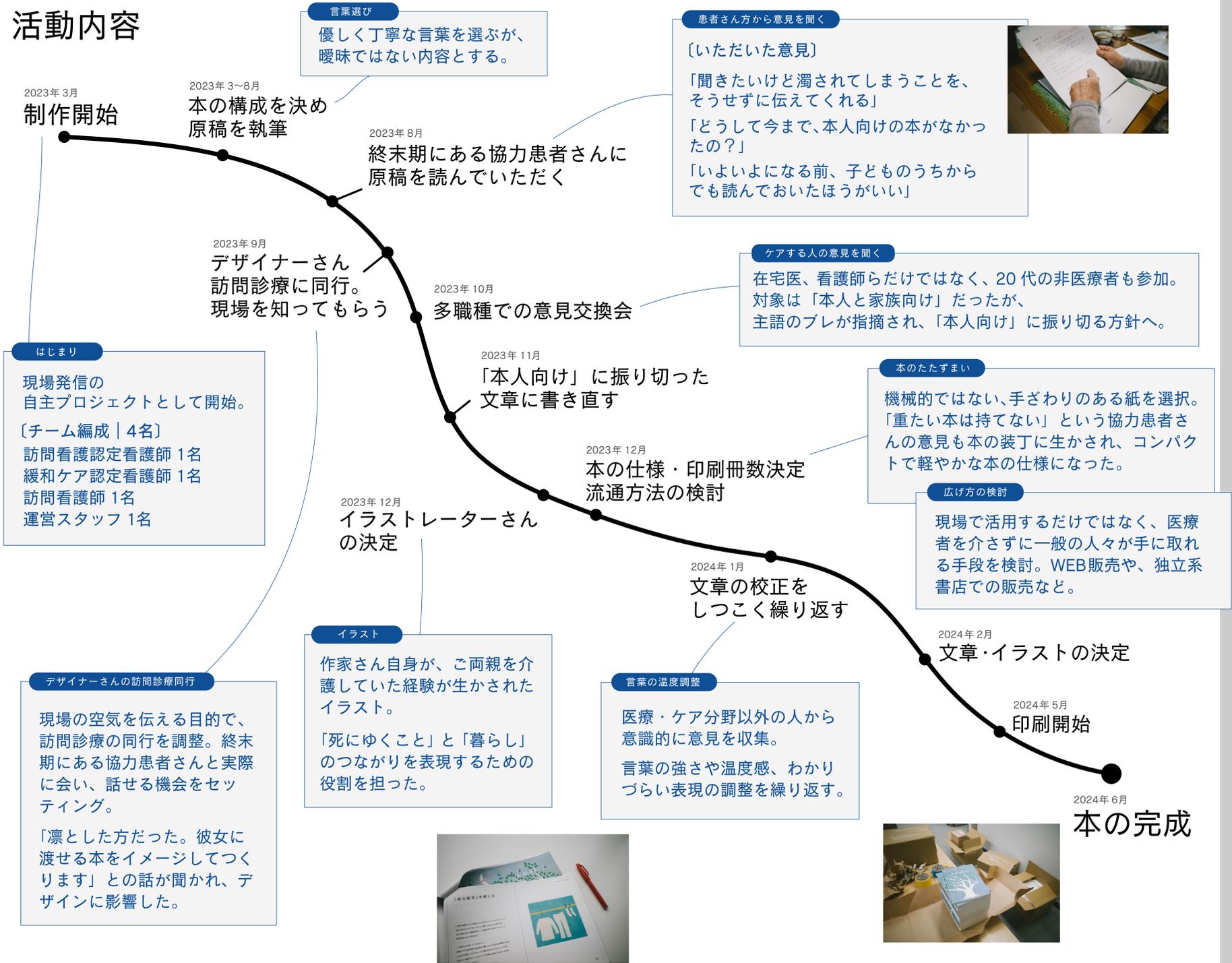
1) 医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック 2) 株式会社メディヴァ

はじめに

患者さん方から「人は死ぬときにどう変化するのか」と問われることがある。人の最期に訪れる変化はおおむね共通しているが、約8割の人が病院や施設で亡くなる現代において（令和5年度厚生統計要覧）、それを知らない人は多い。

看取りに関する知識を伝えることは、本人や家族がよりよい時間を過ごすために重要である。しかし現場で活用される媒体は、ほぼ家族向けで当事者本人に活用できるものがないという課題があり、今回『人のさいご』という本の制作に至った。

活動内容



考察

人はいつか死を迎える。つまり全ての人が当事者である。この本は、本人目線で制作したことで、あらゆる読み手が「自分ごと」として捉えられる本となった。それは、看取りに関する知識を医療者から一方的に伝えるのではなく、分野を超え、終末期にある当事者の方々や表現の専門家（デザイナーやイラストレーター）と協働して制作したためと考える。また、実際に多くの看取りを経験させていただき、患者さん方から様々な想いや葛藤を聞かせていただいたからこそ、多くの人を受け取りやすい言葉を探し出すことができた。

今後の展開

現在 5000 部が販売され、多くの人の手に渡っている。反響は大きく、若い世代から高齢の方、終末期にある方など幅広い層が「人のさいごに訪れる自然な変化」を知り、残りの人生の生き方を考える機会になっている。現在、制作チームでは一般の方や高校生などへのグループワーク等を展開しており、また改めて報告の機会を得たい。

2024年6月販売開始

A5・48ページ
550円/冊



人のさいごに訪れる、自然な変化。やさしく、ていねいに、目を逸らさずに綴った小さい本。

特設WEBサイト
ご購入はこちらから



医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック
制作 医療法人社団プラタナス 桜新町アースケア・ステーション
株式会社メディヴァ
販売先 医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック
一般社団法人コミュニティ＆コミュニケーションズ協会

COI 開示

演題発表に関連し、発表者らに開示すべき
COI 関係にある企業などはありません

連絡先 | 桜新町アーバンクリニック

